はじめまして

ELMO

森　瑞樹（群馬大学医学部医学科４年）

ELMO ってなに？

ELMO という名前は、Experiential Learning with Medical Observation、つまり「医学的観点に基づいた体験学習」の略称からきています。「医学的観点」「体験学習」...文字だけ見ると少し難しい感じがしますね。平たく言うと、「障がいの子も健常の子も区別しない、誰一人省略しないグループワーク」を地域の中で行っている教育団体です。

グループワークと聞いて、少し堅苦しいものを思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれませんね。ELMO では、小さな子どもから大人、障がいを持った子まで誰もが参加できるように、エルモプログラムという独自の遊びのプログラムにグループで取り組んでいます。このエルモプログラム、実は米国のグループワークにおける個人の心理学と心の発達理論に基づいたものです。遊びのプログラムの例を挙げます。

◆鬼ごっこ、ソングゲームのようなアイスブレイクゲーム

◆フラフープを全員でどれだけ早く一周できるか、のような頭を使ったゲーム

◆一人の人をみんなで支えて頭の上の高さまで持ち上げるような（ちょっとキケンな）課題解決型ゲームまで...

こうしたゲームプログラムを通して、全員が協力して課題を解決することの大切さを地域の子どもたち、とりわけ発達障がいを持った親子の皆さんに実感していただこうというのがエルモの活動理念です。

活動には幅広い分野から様々なメンバーが参加しています。ELMO の発起人であり、顧問である福江靖先生（北毛病院小児科長 兼 高崎総合医療センター救急部）をはじめ、医師、看護師、作業療法士、理学療法士、ソーシャルワーカー、コーチングマネージャー等が社会人スタッフとして参加しています。学生スタッフは、群馬大学医学部、教育学部の他、共愛学園前橋国際大学（児童教育コース）、群馬医療福祉大学の学生も多く参加しています。様々な背景を持った社会人や学生が集い、エルモプログラムを実践し、スタッフ自身もまた学びを得て、それぞれのフィールドに戻って役立てています。

ELMO の活動について

まず定期的な活動として、渋川ほっとプラザ（渋川駅近く）にて、月１回、発達障がいの家族会向けにエルモプログラムを行っています。

また、毎年８月に１泊２日のサマーキャンプを開催しています。県内の少年自然の家を貸り切り、２日間がかりのエルモプログラムにチャレンジします。このキャンプで子どもたちは毎年大きな成長を見せてくれます。

最近は外部団体での活動も増えてきています。これまでに、渋川市の市民祭や児童館での親子教室、小学校の学童保育や大学のオリエンテーションなど、様々な年齢層の方々にエルモプロ

グラムを実践してきました。もともとエルモプログラムはグループをまとめるために考案されたものです。コミュニケーションの大切さが叫ばれて久しい今日、ELMO を通して学ぶことが一般に広く求められているのではないかと実感しています。

私たちの目指すもの

前半でも述べましたが、ELMO には発達障がいを持った子どもたちも多く参加しています。「発達障がい」という言葉を耳にした方は多いのではないでしょうか。自閉症、ADHD、広汎性発達障がいなどが挙げられます。

さて、こうした発達障がい、特に自閉症はよく「社会性の障がい」と言われます。一般に、自閉症の子どもたちは学校生活に上手く馴染むことができず、クラスという集団から孤立してしまいがちであると言われます。そこで、小学校入学前の就学前健診でそのような子どもたちを発見し、特別支援学級（もしくは特別支援学校）へ入学させるといった措置がとられてきました（こうした方針を専門用語で「疾患特異的な個別教育」と言ったりします)。しかし、残念ながらそうした子どもたちへの「個別教育」は、その子が将来社会に出てゆくことを見据えたものではないことが多いようです。

当たり前のことなのですが、子どもは成長してやがて大人になります。大人になれば否応無しに社会の中で暮らしていかなければなりません。だから今、目の前にいる子がきちんと社会に出ていけるような力をつけなければならないのです。人間関係の感覚は、あたたかい人間関係を持ったグループの中でしか育たないと思います。障がいを持った自分自身が他のひとと同じように参加でき、他の人がサポートしながらみんなで一つのことを達成できるとしたらどんなに素晴らしいことか----ELMO はそんなグループを目指しています。

私が ELMO に参加して一番思い出に残っているお話をさせてください。

去年のサマーキャンプのことでした。小学校 4 年生の K くんは重度の自閉症を抱えていました。ハッキリとした言葉を話すことができません。私が ELMO に参加したての頃は、彼はグループの輪どころか部屋の中にさえ入ることができない状態でした。先輩のスタッフが、走る彼を一生懸命追いかけていた姿を思い出します。彼にとって、グループの中にいることが相当苦痛だったのだと思います。

しかし月日が経つにつれ、少しずつ輪の中に入っていくことができるようになっていきます。まだ輪から外れることもありますが、背中を押してあげればきちんと輪の中に入って全員でゲームに取り組めるようになりました。私も、彼は本当はみんなとゲームに参加したいのではないかと考えるようになりました。

そして、キャンプ 2 日目の最後の振り返りのとき、

「ありがとう」

彼が、小さくもハッキリとした声で喋ったのです。あのときの驚きと感動は今でも忘れません。

こうした小さな（でもその子にとってはとてつもなく大きな）成長を見られたとき、スタッフとしてこの上ない喜びと、「障がいの子も健常の子も区別しない、誰一人省略しないグループワーク」の意味の大きさを感じます。

さいごに

最後まで読んで下さりありがとうございます。概念的な部分を多く書きましたが、実際の様子を是非一度体験していただければと思います。

ELMO の活動にご興味のある方はお気軽に下記までご連絡ください。お待ちしております。

ELMO 事務局（北毛病院内）
0279-24-1234：igakusei@hokumou.coop
担当：加谷(かや)
Web ページ：
http://elmo-children.jimdo.com/
（「ELMO 体験学習」で検索できます）